

『人を信頼できなかった自分が、樂園と思える場所に出会えた』



目の前のシステムに疑問を抱いた小学生時代

正直今と変わっていないのではと思います。当時からプログラミングが得意で、時間管理が苦手で、人に急かされるのは苦手だけど自身はせっかち、しゃべり方がガキ(基本ため口で話す)、過集中であることに変わっていないなと思います。でも、今ほど忍耐力はなかったと親からは聞いています。

当時は一応、小学校には通っていましたが、遠足で引きずられるなど良い場所ではなかったです。正直、学校というシステムは良いものではないと思います。通常級でついていけなければ支援級に行くなど、自分には理解できず、問題行動が起きた時になぜ通常級で対応できないのかと疑問に思いました。自分の行っていた学校は、先生も児童もやりたい放題で収集がつかない状況でした(自分も校内走り回る、入室禁止の所に入るなどやりたい放題でしたが...).

周りの子も、その影響で抱え込みすぎてしまい精神的に崩れた子がいました。今と比べると、責任感は全くなかったので自由奔放にできたことが多かった気がします。

精神的に苦しかった中学生時代

中学校は行っていませんでした。周りの生徒が廊下でうるさくて耐えられませんでした。また当時通い始めた放デイで自分に合わない対応を受け、精神的に苦しかった時期でもありました。

当時は1か月に1回、スクールカウンセラーと1時間ボードゲームとかして過ごしていました。勉強は個別のフリースクールに通ってサポートしてもらいました。

ティーンズには中2から通い始めました。最初数回はお仕事体験に参加して、その後は平日セッションに参加していました。当時はコロナ禍だったこともあり、基本はオンラインで参加していました。高校受験に向けた面接練習が目的でしたが、当時クオリティを求めることはなく、ただスタッフと話している感覚でした。

進学先は通信制高校を選びました。当時は精神的にも苦しく、かつ学校も行っていなかったため、一般的な学校生活を送れるとは思えず通信制を選びました。過去の経験から、動画配信の授業は相性が悪い(一方的だと話が入ってこない)と思っていましたが、ゆるく参加できるのはいいなと思っていました。

学業・自由時間・受験と様々な体験ができた高校生時代

とにかくレポートに支配された3年間でした。難易度が高く、時間もかかりました。特に数学が大変で、スマホで自分で図式化して理解する日々でした。自分は言葉で理解するよりも目から理解するのが圧倒的に得意なので…。ただ、自分で作った図を使って友達とかに解説するのは得意でした。

高1と高2はレポートの数が膨大かつ長年触れていなかった学習に慣れるのに必死で、ティーンズと両立は難しいと判断し学業に専念しました。ただ高2の終わりごろにレポートや学校生活が少し落ち着き、保護者からの提案もあり、ティーンズに復活しました。学校生活に専念していた時は殆ど外に出る機会がなかったので、外出するきっかけができました。

あとはティーンズに復活してからは、大学準備に力を入れました。進学先の大学を選んだのは「少人数」だから。あとは、得意なプログラミングではなく、リアルな「ものづくり」が体験できるのがいいなと思いました。受験準備の段階では、基本的に人を信頼しない自分がティーンズのスタッフを信頼できるようになり、志望理由書の作成や面接練習などとにかくサポートしてもらいました。直前に発熱してどうなるかと思いましたが、無事に受験会場に行くことができました。行ってみると受験者1人で拍子抜けしましたが…(苦笑)無事に合格して4月から大学に入学します。

ティーンズは自分にとって、今後一生ないと思うような「楽園」でした。周りの子の大きな声が鬱陶しいと思うことはありましたが、それがどうでもよくなるくらい「自由」な場所で居心地が良かったです。

ティーンズの後輩へ一言

自分らしく好きに過ごしてください。ティーンズは良い意味で、やりたい放題を認めてくれる場所だと思います。

H・Sさん

小学校: 支援級(不登校)⇒中学校: 不登校⇒高校: 通信制高校⇒大学進学

利用時期: 2021年2月～2022年2月、2023年12月～2025年3月 参加プログラム: 平日セッション(週3回)

ティーンズで行っていたこと: 個人面談(体調確認、趣味の共有)、進路サポート(受験準備、進学前準備)

長所: やると決めたことをやり切る

過去の自分に一言: 特になし!